

尿路に対する手術

- Xなし あり、恥骨上カテーテル挿入術、施行日（1999年／05月／15日）
- あり、膀胱結石摘出術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、上部尿路結石摘出術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、膀胱拡大術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、括約筋切開術／尿道ステント、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、ボツリヌス毒素注入術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、人工尿道括約筋、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、回腸利用膀胱瘻造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、回腸導管造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、禁制型導尿路造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、仙髄前根刺激装置埋込、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、その他、具体的に_____、施行日（ 年／ 月／ 日）
- 不明

過去1年以内の尿路症状の変化

- なし あり X該当せず 不明

下部尿路機能基礎データセットトレーニングのための症例 4

特に既往歴のない生来健康な29歳の女性で、2004年1月25日自動車事故により受傷。その結果、C6棘突起骨折、C6-C7両側関節突起脱臼をともなうC6椎弓根骨折を負った。これに対し、左腸骨稜からの自家骨採取とインプラントによるC5-C7脊椎椎体後方固定術がおこなわれた。患者は当初尿道留置カテーテルを受けたが、2004年2月12日に抜去された。バルーンカテーテル抜去に際し、オキシトロール（オキシブチニン）のパッチを3-4日毎2枚交換し、6時間毎の自己導尿を開始した。彼女には膀胱充満感がなかった。何度も尿路感染を繰り返したため、導尿と導尿の間の尿失禁と尿流動態検査では排尿筋括約筋協調不全を伴う著明な排尿筋過活動を示した。そのため、2006年6月6日にボツリヌス毒素による化学的除神経を受けた。その後も症状の改善がみられず、オキシブチニン徐放剤10mgを1日2回服用した。自己導尿が困難なことから、導尿と導尿の間の尿失禁のために、2006年9月に14Frシリコンバルーンカテーテル留置による尿路管理に変更した。カテーテルによる問題点は特になく、4週毎の交換がおこなわれた。一番最近の尿流動態検査では、膀胱容量が114mlに低下し、コンプライアンスの低下もみられた。排尿筋漏出圧は85cmH₂Oに上昇した。将来的には、バルーンカテーテルをやめて、尿禁制導尿路（continent catheterizable valve）による自己導尿を再開したいと思っている。現在、膀胱拡大術とミトロファノフの虫垂利用導尿路による尿路再建を計画している。

国際脊髄損傷データセット
下部尿路機能基礎データセット書式

症例 4

データ記入日（西暦）2007年05月11日

脊髄の病変と無関係の尿路障害：

Xなし あり：具体的内容_____ 不明

膀胱を空にすべきという感覚

Xなし あり 該当せず 不明

尿排出の方法	主なもの	補助的なもの
正常排尿	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
膀胱反射誘発		
随意（叩打、引っかき、肛門の伸展）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
不随意	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
膀胱圧迫		
怒責（腹圧、Valsalva法）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
外的圧迫（Credé法）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
間欠導尿		
自己導尿	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
介助者による導尿	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
留置カテーテル		
尿道留置	X	<input type="checkbox"/>
膀胱瘻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 仙髄前根刺激
- 非禁制型尿路変更／ストーマ
- その他 具体的内容 _____
- 不明

過去1週間の1日あたりの随意排尿の平均回数 0 回

過去3ヶ月間の不随意の尿漏れ（尿失禁）

- Xなし あり：ほぼ毎日 あり：週に1回程度 あり：月に1回程度
- 該当せず 不明

尿失禁に対する対処法

- Xなし あり：コンドーム型集尿器
- あり：おむつ、パッド
- あり：オストメイト用バッグ
- あり：その他 具体的内容
- 不明

過去1年間の尿路に対する薬物使用歴

- なし Xあり、膀胱弛緩薬物（抗コリン薬、三環系抗うつ薬など）
- あり、括約筋／膀胱頸部弛緩薬物（ α アドレナリン遮断薬など）
- あり、抗生物質／殺菌薬：X尿路感染症治療目的
- 感染予防目的
- あり、その他、具体名
- 不明

尿路に対する手術

- なし あり、恥骨上カテーテル挿入術、施行日（1999年／05月／15日）
- あり、膀胱結石摘出術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、上部尿路結石摘出術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、膀胱拡大術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、括約筋切開術／尿道ステント、施行日（ 年／ 月／ 日）
- Xあり、ボツリヌス毒素注入術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、人工尿道括約筋、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、回腸利用膀胱瘻造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、回腸導管造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、禁制型導尿路造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、仙髄前根刺激装置埋込、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、その他、具体的に_____、施行日（ 年／ 月／ 日）
- 不明

過去1年以内の尿路症状の変化

- Xなし あり 該当せず 不明

下部尿路機能基礎データセットトレーニングのための症例 5

患者は75歳男性で、14年前の交通事故のためT7対麻痺となっている。

2007年8月12日にフォローアップのために受診した。泌尿器科的既往は、63歳時に前立腺肥大症に対してTUR-P施行されている。

排尿筋括約筋協調不全を合併した神経因性過活動膀胱に対して膀胱弛緩薬を服用し、清潔間欠自己導尿で対応していた。問題なく経過していたが、5年前に尿路感染を繰り返すうちに両側の水腎症が見つかった。尿流動態検査の結果、低コンプライアンス-高圧膀胱と両側の膀胱尿管逆流が認められた。血清クレアチニン値は経度上昇していた。

尿道留置カテーテルでの管理を開始したが、外尿道口と亀頭部のびらんのために中止せざるを得なかった。ボツリヌス毒素を用いた治療法は、治療費が高額となるため（患者の国では保険償還が認められていない）、行うことができなかった。

腸管利用膀胱拡大術については、患者が受け入れなかった。

2001年11月22日に尿道括約筋切開術を施行し、その後4年半の間はコンドーム型集尿器を使用していた。経過観察中の2004年にPSAの上昇を認めた（31ng/ml、この年齢の基準値<4.6）。

前立腺生検を施行したところGleason score 3+3=6、pT2N0M0の前立腺癌が見つかった。

これに対して局所放射線療法を施行し、PSAは0.1まで低下した。

翌年、陰茎包皮に重症の褥瘡性潰瘍が発生し、精査の結果糖尿病が見つかった。2005年4月2日に回腸導管造設術が施行された。

その後の2年間の経過観察では、水腎症は認められず、血清クレアチニン値の増悪も見られていない。また、PSA値の上昇もなく、ストマのトラブルも生じていない。

国際脊髄損傷データセット
下部尿路機能基礎データセット書式

症例 5

データ記入日（西暦） 2007年08月12日

脊髄の病変と無関係の尿路障害：

なし あり、具体的内容：63歳でTUR-Pを受けた。2004年にPSA上昇（31ng/ml；この年齢での基準値<4.6ng/ml）。前立腺生検にて pT2、グリソンスコア 3+3、n0、m0 adenocarcinomaの診断。放射線療法にてPSAは0.1まで低下した。

不明

膀胱を空にすべきという感覚

なし あり 該当せず 不明

尿排出の方法	主なもの	補助的なもの
正常排尿	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
膀胱反射誘発		
随意（叩打、引っかき、肛門の伸展）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
不随意	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
膀胱圧迫		
怒責（腹圧、Valsalva法）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
外的圧迫（Credé法）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
間欠導尿		
自己導尿	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
介助者による導尿	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
留置カテーテル		
尿道留置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
膀胱瘻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 仙髄前根刺激
- 非禁制型尿路変更／ストーマ
- その他 具体的内容 _____
- 不明

過去1週間の1日あたりの随意排尿の平均回数 __回

過去3ヶ月間の不随意の尿漏れ（尿失禁）

- なし あり：ほぼ毎日 あり：週に1回程度 あり：月に1回程度
- 該当せず 不明

尿失禁に対する対処法

- なし あり：コンドーム型集尿器
- あり：おむつ、パッド
- あり：オストメイト用バッグ
- あり：その他 具体的内容
- 不明

過去1年間の尿路に対する薬物使用歴

- なし あり、膀胱弛緩薬物（抗コリン薬、三環系抗うつ薬など）
- あり、括約筋／膀胱頸部弛緩薬物（ α アドレナリン遮断薬など）
- あり、抗生物質／殺菌薬：X尿路感染症治療目的
- 感染予防目的
- あり、その他、具体名
- 不明

尿路に対する手術

- なし あり、恥骨上カテーテル挿入術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、膀胱結石摘出術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、上部尿路結石摘出術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、膀胱拡大術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- Xあり、括約筋切開術／尿道ステント、施行日（2011年／11月／22日）
- あり、ボツリヌス毒素注入術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、人工尿道括約筋、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、回腸利用膀胱瘻造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- Xあり、回腸導管造設術、施行日（2005年／4月／2日）
- あり、禁制型導尿路造設術、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、仙骨前根刺激装置埋込、施行日（ 年／ 月／ 日）
- あり、その他、具体的に_____、施行日（ 年／ 月／ 日）
- 不明

過去1年以内の尿路症状の変化

- なし あり 該当せず X不明

